

予習に関する諸問題

——実践記録の一ページから——

加藤重寿

はじめに

最近、学活活動における予習の問題が、私の学校の教員室でも、話題にされる。「生徒が予習をして来ないので授業がしにくい」とか、いろいろ話しあうのであるが、では、じっさいに生徒たちがこの問題をどう考え、どのくらいと実際行動に移しているかということを見出し、また、それをどう処置していくかという点では、ほとんど手がつけられていない現状である。

私は、かねがねこの問題に対して非常に興味をもち、国語科の学習には予習はせたい欠くことのできないものであるとさえ考えてきたのであるが、今ここに、この春おこなった実態調査をもとにして、高校生たちがこの問題をどう考え、どんな方法で何を予習しているかということの実態をつかみ、それに対してじっさいに私がお

こなっている一つの指導法——学習のびき——がどのくらい生徒たちに影響を与えているかということを観察してみたいと思う。これは、今私が教室でやっていることの間報告である。

1 実態調査

以上述べた意図のもとに、私は、この四月にはじめて指導することになった生徒たち（三年生進学者93名Ⅱ男71女22、二年生就職希望者95名Ⅱ男35女60、一年生52名Ⅱ男22女30）計240名を対象にして次のような実態調査をおこなった。

学年、組（ ）氏名（ ）男・女

（国語科）予習についての実態調査

(1) 学習上、予習を必要と思うかどうか。

イ必要と思う。 ロ必要とは思わない。

(2) いつも予習をやっているかどうか。

イ かならずやっている。

ロ ほとんどの場合やっている。

ハ やったりやらなかったり。

ニ ほとんどやらない。

ホ 全然やらない。

(3) 何のために予習をするのか。

イ 予習をやっておかないと授業がわからない。

ロ 予習をやるともっとも学力が向上する。

ハ 授業中に指名されて知らなかったらはずかしい。

ニ 知らなかったばあいに先生から叱られるのが嫌だ。

ホ その他

(4) なぜ予習をしないのか。

イ 国語が嫌いでもうせやってもわからない。

ロ する方法がわからない。

ハ 参考になる書物がない。

ニ 受験勉強その他に追われて予習をする時間などない。

ホ その他

(5) 国語の勉強時間を10として、予習にどれくらいの時間をあて

か。

イ 10 ロ 9 ~ 6 ハ 5 ~ 3 ニ 2 ~ 1

(6) 予習をするばあい、どんな方法をとるか。

イ 辞書だけでやる。

ロ やき(自習書)、参考書等だけでやる。

ハ イ、ロの総合的方法でやる。

ニ先に進んでいるクラスの人からノートを見せてもらったり教

えてもらったりする。

ホ その他

(7) どんな点を予習するか。

イ 作者(略歴、流派等)について調べる。

ロ その作品の時代の背景、文学史的価値等について調べる。

ハ 作品の全体を通読する。

ニ 語句の意味、その他文中に出てくる事項について調べる。

ホ 主題を追求する。

ヘ 段落に分けて構成を考える。

ト 表現法等に配慮しながら文体の特色をつかむ。

チ その他

(8) 今までの経験にもとづいて、予習をしてきたばあいの効果につ

いてできるだけ詳細に書け。

(9) その他、予習に関する問題についての 日ごろからの考え、意

見、希望等をのべよ。

今、この実態調査の結果を分析してみると、次のようになる。

(1) 学習上、予習を必要と思うかどうか。

		イ 必要と思う。	ロ 必要とは思わない。
三年	男	65	7
	女	21	0
二年	男	27	8
	女	57	3
一年	男	22	0
	女	30	0
計		222	18
%		92.5	7.5

イ必要と思う。(92.5%)

ロ必要とは思わない。(7.5%)

右の表を見てもわかるとおり、予習を必要と考えている者は、学年、男女の別を問わず非常に多く222名、全体の92.5%を占めているのに対し、不必要と考えている者は18名にすぎない。
(2)いつも予習をやっているかどうか。

		イかならずやっている。	ロほとんどの場合やっているといる。	ハややったりやらなかったり。	ニほとんどやらない。	ホ全然やらない。	無回答
三年	男	0	13	41	11	6	0
	女	0	0	7	0	0	0
二年	男	0	5	17	10	3	0
	女	13	0	6	6	0	13
一年	男	0	7	11	4	0	0
	女	1	4	18	0	0	1
	計	14	62	116	31	9	14
	%	5.8	25.8	48.3	12.9	3.7	5.8

イかならずやっている。(3.3%)

ロほとんどの場合やっているといる。(25.8%)

ハややったりやらなかったり(48.3%)

ニほとんどやらない。(12.9%)

ホ全然やらない。(3.7%)

無回答(5.8%)

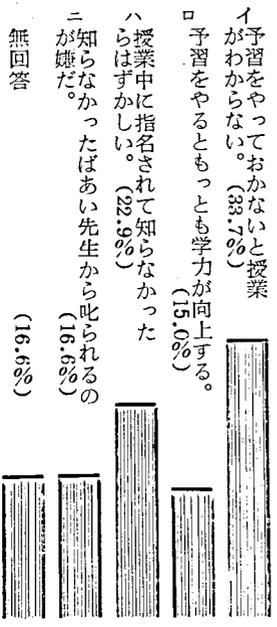
前記のとおり、予習は必要とと考えている者は、全体を通じてたいへん多かったのであるが、「実際にやっているか」の問題になると、その数は激減し、「かならずやっている者」と「ほとんどの場合やっているといる者」をあわせても、全体の30%に満たない数である。これをみると、予習の必要性は認めながらもそれを実行にうつしていかない者がいかに多いかがわかる。

また、男女の別についてみると、「かならずやっている」者が男10、女18、「ほとんどの場合やっているといる」者が男25、女37となっており、その反面、「ほとんどやらない」者が男25、女16、「全然やらない」者が男9、女0となっている。この結果からみると、少なくとも予習に関して、男子よりも女子の方が熱心であるといえることができる。

(3) 何のために予習をするか。

イ 予習をやっておかないと授業がわからない。	30
ロ 予習をやるとともに学力が向上する。	12
ハ 授業中に指名されて知らなかつたらはすかしい。	7
ニ 知らなかつたばあい先生から叱られるのが嫌だ。	8
無回答	14

三年	男	14	8	7	12	30
	女	0	2	8	3	9
二年	男	15	6	4	4	12
	女	5	12	21	3	20
一年	男	4	5	6	5	3
	女	2	7	9	9	7
計		40	40	55	36	81
%		16.6	16.6	22.9	15.0	33.7



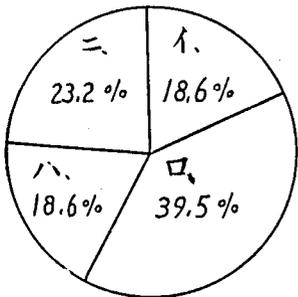
この間については、右の表でもわかるとおり、「予習をやっておかないと授業がわからない」と答えた者がもっとも多く全体の33.7%を占め、ついで「知らなかつたらはすかしい」、「先生に叱られる

の嫌だ」という順になっている。なお、この間に対して二つの答を出した者がかなり多くあったが、これは当然のことと思う。(4)なぜ予習をしないのか。

イ 国語が嫌いでもうせやってもわからない。	3
ロ する方法がわからない。	6
ハ 参考になる書物がない。	1
ニ 受験勉強などに追われて、予習をする時間などない。	9

三年	男	9	1	6	3
	女	0	0	0	0
二年	男	1	2	6	3
	女	0	1	1	0
一年	男	0	1	3	2
	女	0	3	1	0
計		10	8	17	8
%		23.2	18.6	39.5	18.6

(この間については答えた者が少なかつたため%は答えた者43名中の何%というふうに出した。)



イ 辞書だけでやる。(7.5%)

ロ 自習書、参考書等だけでやる。(20.0%)

ハイ、ロの総合的方法でやる。(41.0%)

ニ 先に進んでいる人からノートを見せてもらったり教えてもらったりする。(37.0%)

無回答 (7.0%)

生徒たちがどんな方法で予習をしているかがこれでよくわかる。

すなわち、辞書だけでこつこつやっている者がわずかに4.1%にすぎず、ほとんどの者がロまたはハと答えたように、自習書を用いる安易な方法をとっている。また、国語の予習をするのに辞書をぜん

ぜん使っていない者が40%もいるのは驚かざるをえない。

(7) どんな点を予習するか。

イ 作者(略歴、流派等)について調べる。	4	0	0	4	10	4.1
ロ その作品の時代の背景、文学史的価値等について調べる。	0	0	0	0	2	0.8
ハ 作品の全体を通読する。	29	10	29	8	91	37.9
ニ 語句の意味その他文中に出てくる事項について調べる。	58	19	24	56	203	81.5
ホ 主題を追求する。	6	2	1	4	18	7.5
ヘ 段落に分けて構成を考える。	6	6	1	3	18	7.5
ト 表現法等に注意しながら文体の特色をつかむ。	2	0	0	1	5	2.0
計	110	35	82	152	384	152.0
%	2.0	10.8	7.5	84.5	37.9	0.8

イ 作者について調べる。(4.1%)

ロ その作品の時代の背景、文学史的価値等について調べる。(0.8%)

ハ 作品の全体を通読する。(37.9%)

ニ 語句の意味その他文中に出てくる事項について調べる(81.5%)

ホ 主題を追求する。(7.5%)

ヘ 段落に分けて構成を考える(10.8%)

ト 表現法等に注意しながら文体の特色をつかむ。(2.0%)

右の表のような結果であるが、これを見ると、高校生の予習はほとんど語句等の注釈作業に終始していることがわかる。全体を通じて81.5%の生徒がこの作業をやっている反面、私が意図する読解指導にそった問題——主題の追求、文章の組み立て方の考察等——について心をくばっている生徒があまりにも少ない現状である。ここに、国語教育のあり方の大きな問題がひそんでいるように思われる。

(8) 今までの経験にもとづいて、予習をしてきたばあいの効果についてできるだけ詳細に書け。

この間については答えたものが非常に少なかったのであるが、今のうちのいくつかを示してみたい。

○ 予習をして来た日と来ない日で授業中の気分が全然ちがう。やって来たばあいは授業がおもしろく感じたり、また、先生に指名されても答えられるという安心感があるため気持が楽である。

(三年、男)

○予習をすると自分のわからない所がどこであるかを見つけ出すことができる。そして自分の分からない所になるとき、んちようしてよくききとることができる。

(三年、男)

○習う所を前もってよく読んで全体のあらましをつかんでおいたばあい、授業中の先生の話がわかりやすい。

(三年、女)

○自分で予習した事は記憶によく残って忘れにくい。予習をする、と、授業でどんな事を習うかが前もってよくわかり、授業におもしろみが出る。

(三年、男)

○予習をして自分のわからない所を知っておくと、授業中にその箇所を理解して復習の手間がはぶけ、テストになっても国語になが時間をかけないですむ。

(三年、男)

○いろんな意味において効果がある。先生の考えと自分のとを比較して、自分の考えがまちがっていれば改める。自分の不得意な方面(私であれば現代文)等は語句の意味を調べるのも大事であるけれど、何回も納得のいくまで読むことによってしぜんと解決がついてくる。

(三年、女)

○毎度少しずつでも予習をやっていると、しだいに成績が上ってくる。

(二年、女)

○予習してわからない所にマークしておき、授業中にそのわからない所をよくきいてみると、その時間中に確実に自分のものになることができる。

(二年、女)

○予習してきたばあい、先生の説明とてらしあわせて、もっとこういう所を予習しなければならぬという所がわかる。

(一年、女)

○他人が知らないことを自分が知っているという優越感に[→]したれ

る。(一年、女)

○予習をして来ないばあいは授業中にノートがとりにくいのに対し、十分予習をしてくると、ノートの整理がしやすい。

(一年、男)

以上のような状態であり、三年生では「予習において発見した難解な箇所は授業中に理解しやすい」という意味のものが多いのに対し、二年生、一年生と学年が下るにつれて、「予習をしておく、いつ指名されても大丈夫という安心感からおちついて授業が受けられ、その結果として一時間の授業がおもしろいしまた理解もしやすい」という意味のものが多くなっている。

(7)その他、予習に関する問題についての日ごるからの考え、意見、希望等をのべよ。

この間に答えた者はさらに少なく、また、あまり指導上の参考になるものはなかったが、目についた一例だけをあげておく。

○自分の予習のしかたはまちがっているのではないかと思う。もっと大事なことをするのがいつも抜けているような気がしてならない。しかし、いつもこのように考えながらずると同じことをくりかえしている。(三年、女)

2 予習と成績

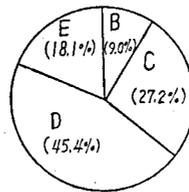
私は、念のために、前記実態調査において「予習をやっている」と答えた者と「やっていない」と答えた者がそれぞれどのような成績分布を示しているかを知ることにより、[→]国語学習における予習の重要性を探ろうと試みた。

そこで、三年生の98名について、一学期の成績を絶対評価によってA(80点以上)、B(79点~70点)、C(69点~60点)、D(59点~45点)、E(44点以下)という五つの段階に分け、実態調査の「(2)いつも予習をやっているかどうか」の間にロハニホの答を出した者(イと答えた者なし)が、それぞれどのような成績分布を示すかを調べてみた。

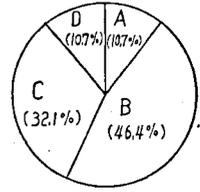
	ロほとんどのばあいやっている	ハやったりやらなかったり	ニほとんどやらない	ホ全然やらない
A	3 (10.7)	1 (2.0)	0	0
B	13 (46.4)	5 (10.4)	1 (9.0)	0
C	9 (32.1)	12 (45.8)	3 (27.2)	1 (16.6)
D	3 (10.7)	16 (33.3)	5 (45.4)	4 (66.6)
E	0	4 (8.3)	2 (18.1)	1 (16.6)

()内の数字は、各答を出した者におけるA~E各段階の%を示す。

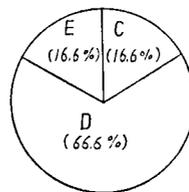
右の表をみると、A段階の成績をとっているのはロ(ほとんどの場合やっている)と答えた者に3名、ハ(やったりやらなかったり)と答えた者に1名と計4名だけであり、B段階はロに13名以下85名、ニ1名、ホ0となっており、成績上位者はやはり予習をていねいにやっている者に多い。



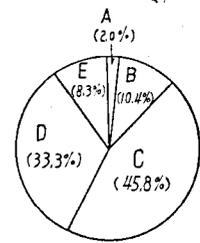
ロほとんどやらない。



イほとんどのばあいやっている。



ニ全然やらない。



ロやったりやらなかったり。

また、ロハニホそれぞれの答え方をした各グループについて考えてみると、ロと答えた者のうちわけはA 0.1%、B 5.1%、C 32.1%、D 10.5%となっておりB段階の成績をとった者もっとも高い率を示しているのに反し、ハと答えた者ではC段階、ニあるいはホと答えた者ではB段階の成績をとった者が最高の率を示している。さらに、これを四月以来数回にわたっておこなわれた校内の進学模擬テストの成績と照らし合わせてみると、はっきりした数字には表わせないながらも、より強くその傾向が表われているように思われる。

この結果から考えてみても、高校生の国語学習においては、予習がいかに重要な地位を占めているかがよくわかる。

3 予習の手びき

さて、前記実態調査における第七番の間、「どんな点を予習するか」において、「二、語句の意味、その他文中に出てくる事項について調べる」と答えた者が全体の80%を示し、他の点にほとんど無関心な者までがこの点にだけは注意を向けているということが、多少気がかりに思われる。おそらく、今の高校生の間では「国語の学習即語句の注釈」という観念がいせんとして生きていたのではないかとさえ考えられる。彼らとしては、自分では予習をやっているつもりでも、じっさいにはどのような点をどのように予習してよいかわからないために焦点がぼやけ、その結果としてさほどの効果が得られない、したがって予習が嫌になるといふ悪循環から、予習を必要とは思いつながらもじっさいにはあまりやっていないという結果を招いているのではないだろうか。そこで、彼らに正しい予習の方向を知らせ、十分な効果をあげさせるためには、早急に適切な指導措置が考えられなくてはならない。私自身も以前からいろいろと考えもし、またいろんな方法もやってみたが、最近暗中模索のようなかっこうで試みている方法をここに提示してみたいと思う。

それは、その教材を指導する一週間前までに、「学習の手びき」と称するプリントを配布しそれについて多少の解説をしておくことである。今手もとにある、昨年の二学期に一年生で実施した具体例を示しておきたい。

1 教材

「高等国語一総合」(角川書店)

近代の小説一 伊豆の踊り子
2 学習の手びき—プリント

(1) 図書館の本等を利用して、「伊豆の踊り子」の全文を通読せよ。

(2) 78ページ

「一つの期待」とはどんな期待か。それは、本文のどこにどのように表現されているか。

(3) 79ページ

「旅情が身についた」とはどんなことか。また、それはなぜそうなったのか。

(4) 80ページ

「胸騒ぎするばかりで立ち上がる勇氣が出なかった」「わたし」の心理を分析してみよう。

(5) 80ページ

「わたしの空想」とあるが、どんなことを空想していたのだろうか。

(6) 80ページ

「わたしをあおりたてた」とは、「わたし」のどんな気持ちをあおりたてたのだろうか。

(7) 81ページ

「急に歩調をゆるめることもできない」「わたし」の気持ちを分析してみよう。

(8) 81ページ

「わたしはほっとして……」とあるが、そのほっとした気持ちを分析してみよう。

(9) 81ページ

「うしろから女たちがばたばた走り寄って来た」とあるが、女たちが急にそんな態度に出たのはなぜだろうか。

(10) 82ペ16行

「むぞうさに答えた」とあるが、なぜ「むぞうさに」という語を使ったのだろうか。「わたし」の気持ちを考えてみよう。

(11) 85ペ11行

「わざとおくれて」とあるが、なぜわざとおくれたのだろうか。

(12) 87ペ10行

「感情の傾きをほいと幼く投げ出して見せた声」とあるが、どんな声だろうか。また「感情の傾き」とは具体的にどんなことをいふのだろうか。

(13) 78ペ10行、79ペ1行、83ペ1行、84ペ4行、8行、

84ペ16行、85ペ3行、85ペ7行、9行、86ペ7行、13行

右のような箇所から、踊り子の性格をまとめてみよう。

(14) 78ペ6行、7行、78ペ11行、12行、79ペ16行、82ペ2行、80ペ

9行、13行、81ペ5行、9行、82ペ9行、11行、87ペ7行、11行

右のような箇所にしたがって、「わたし」の心理のうつりかわりを考察してみよう。

(15) 本文をいくつかの段落に分けて、その構想を考えよう。

(16) この小説の主題は何だろうか。

(17) 作者の流派(新感覚派)について調べ、本文中にその特色をさがし出そう。

4 「手びき」の影響

何事によらず期待したような効果が一朝一夕にあらわれるものではない。私のばあいもその例にもれずさほどの効果があったようでもなく、一時はこの方法に自信を失いましたが、より適切な方法が見つからないままにいせんとして今もなおこの方法をとっている

わけである。

ただ、当時の記録をひもといて、「伊豆の踊り子」を扱った時の生徒たちの感想文の数例をここに列挙してみたいと思う。

○プリントの問題がむずかしいので、どんなにして調べてよいかわからなかった。

○答がやき(自習書Ⅱ筆者注)に出いていないので困った。

○今までは自分で予習して来ても先生から何をきかれるかわからないので不安だったが、プリントの予習をしておけばよいという気持ちで安心していられた。

○今までは自分ではやってきているつもりでも「勉強しない」とよく先生から叱られたが、プリントを見ると何を考えてきたらよいかがよくわかって便利である。

私が記録にとどめているのは以上のようなものである。

なお、私は各教材の指導を終えるたびに、なるべく、簡単な小テストをおこなうことにしているが、この時の成績は、プリントを与えなかった時のに比べて多少よかったように記憶している。ただ、その時の記録が手もとにないのは残念である。

おわりに

私の実態調査は何の計画性もなく気まぐれなものであり、その分析法もじつにあいまいなものであると思う。ただ私は、「高校生の国語学習ことに受験勉強には、暗記にたよる復習中心の勉強ではだめ、予習はせつたいに欠くことのできないものである」という信念のもとに、彼らがよりよき学習効果をあげるために予習の問題ととりくんでいるわけである。こんなことも、諸先生方、諸先輩方のご指導を受け、自分でも反省を加えながら、この問題を究明していきたいと思う。

(和歌山県向陽高等学校教諭)